2 親が不登校の子どもと向き合うためには何が必要か

※紹介する事例はプライバシー保護のため、事実と変えているところがあります。

軸が心にできる

何事にも動じない鉄の棒のような考え方では、子どもは自分と向きあうことはできません。ゆれるけど、ぶれることはない竹のようなしなやかな心の方が大切です。

■頭でわかっても心がついていかない

星の会は２２年目を迎えますが、その長い歴史の中で実感することは、例会で語り合ううちに親たちにぶれない軸がしだいにできてくるということです。

最初は、「子どもは怠けているわけではない」「子どもはいろいろ考えている」「不登校は悪いことではない」「不登校にも意味がある」「見守ることが大事」等々、不登校を理解することができます。しかし、ゲームばかりする子どもの姿や、昼夜逆転の生活をする状況に不安を覚えます。「このままいつまで続くのか…」と焦りを感じる親もいます。

そうすると、不登校の理解はできても、子どもに対して「ゲームばかりしていないで、少しは勉強をしたら…。」「学校に行かなくても良いから、朝はちゃんと起きて一緒にご飯を食べよう。」と言ってしまいます。しかし、今が精一杯の子どもにはそうした言葉は心に届きません。それどころか、ますます元気がなくなったり、イラついて暴言を吐いたりします。親にしたら、学校を休ませてもいっこうに子どもが「良くなる」（元気になった学校に行くようになる）兆しが見えません。わかっていても寄り添うことができなくなっていきます。いわゆる「頭でわかっても心がついていかない」状態です。

■できないことは「軸」にならない

そんな時に、「信じて、まかせて、待てば良い。そうすれば、きっといつか子どもが立ち上がる」と教えのようなものをアドバイスする人がいますが、「信じて、まかせて、待つ」はぶれない「軸」にはなりません。

また、親の中にも「まだまだ修行が足りない。もっと強い心を持たなければ。私よりも子どもの方が苦しいのだから。」と自らを励ます人がいますが、その「強い心」もぶれない「軸」にはなりません。

「ありのままを受け入れることが大切。子どもが荒れることが気になっているのは、まだまだ『よしよし』が足りない」という考え方もありますが、その「ありのままを受け入れる」も、ぶれない「軸」にはなりません。

それは、なぜでしょうか。そもそも、親にとって「信じて、まかせて、待つ」や「強い心を持つ」や「ありのままを受け入れる」など、言うほどに簡単なことではありません。親だから、待つことができないし、強い心を持てないし、ありのままを受け入れることができない一面をもっています。できないことを追い求めても、背伸びをする（わかったふりをする）事はあっても、「軸」を持つことはできないのです。

では、ぶれない「軸」はどのようにして親の心に生まれるのでしょうか。

■「軸」とは何か

「軸」とは、心がけることや努力目標などではありません。「軸」は、学校にこだわっていた親が、子どもを命の存在として見ながら、時に子どもを追いつめる等の生活を通してたどりつく考え方です。その中身は人それぞれ違います。

娘が、不登校をしたのは小学５年生でした。休み始めた時に、「無理をしないでゆっくり休みなさい。学校は行きたくなった時に行けば良いから。」と伝えました。娘がとても苦しそうにしていたからです。しかし、その言葉は、その時の娘の心に届きませんでした。「お父さんは、『ゆっくり休め』って言うけど、このまま休んだら私の将来はどうなると思うの。簡単に言わないで。」と泣かれてしまいました。

娘のつらく不安そうな表情を見ると、「学校に行けるようにしてあげた方が良いのではないか」と心が揺れました。しかし、学校に行けるようにする方法など…。どうすることもできず、学校の存在が疎ましく思え、娘を苦しめる学校なんか無くなれば良いのにとも思いました。

何を言っても、何をしても、苦しそうにしている娘。私は自分の無力さを感じました。当時の私にできたことは、仕事から帰った時に娘のいるであろう部屋のドアに向かって「ただいま。」と声をかけることくらいでした。また、時折健気に明るく振る舞う娘と普通に会話をすることくらいでした。しかし、そこには大切なことが…。

（次号に続く）

内閣府から表彰されました

星の会が「子供・若者育成支援部門」で内閣府特命担当大臣表彰を受けることができました。表彰式は、３月２３日（水）に東京で行われ、加嶋が出席しました。

２１年間で６００回を超える例会を開いて、不登校の子どもとその保護者を支援したことが認められました。

こうした歴史を積み重ねることができたのも、世話人を始め会員さんや支援者・関係機関の皆さん方のおかげです。ありがとうございました。

表彰状と盾

寄付のお礼　飯田幸子様、深江芳博様よりご寄付をいただきました。

おねがい

原稿をお寄せ下さい

●感想・体験　●伝えたい情報
●その他不登校に関すること

＜メール＞toiawase@hoshinokai.net
＜FAX＞ 0972－24－3557

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・イニシャルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

寄付の募集

活動を継続・発展させていくために寄付や切手等の寄贈をお願いしています。力をかして下さい。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

＜口座記号番号＞ 01710-8-142651
＜加入者名＞ 不登校を考える星の会

例会の予定

○昼の大分例会…5月7日（土）13:00～16:30
○別　府　例　会…5月7日（土）19:00～21:00
○豊後大野例会…5月12日（木）19:00～21:30
○津 久 見 例 会…5月13日（金）19:30～21:30
○夜の大分例会…5月20日（金）19:00～21:30
○湯 布 院 例 会…5月26日（木）19:30～21:30

会報発送作業

■4月28日（木）14:00～
■ジョイフル米良店
■お尋ねは河野
（080-5272-9360）まで

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。